

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年3月18日

【評価実施概要】

事業所番号	4770700146
法人名	医療法人 緑の会
事業所名	グループホーム イジュの花
所在地	〒907-0001 沖縄県石垣市大浜453番地の12 (電話)0980-84-1212

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1(沖縄県総合福祉センター西棟4F)
訪問調査日	平成21年3月13日

【情報提供票より】(H21年1月28日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 11月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 9.2 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート一部鉄骨 造り 2階建ての 階 ~ 1階部分
------	-----------------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	日常生活費日額200 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 780 円			

(4)利用者の概要(1月28日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 92歳	最低	82歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	沖縄県立八重山病院・中部徳洲会 石垣島徳洲会病院・いそべ歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは高田部落に隣接し、すぐ隣りには石垣市老人福祉センターがあり、自然豊かで静観な場所に位置している。入居している利用者の平均年齢は92歳と高いものの、穏やかでゆったりとした時間の流れと共にくつろぎ、落ち着いた雰囲気の中で暮らしている。地域との交流については、これまでのホームの努力姿勢が着実に浸透し、地域の祭や行事等に利用者や職員が共に参加し地域との交流等も行われている。保育園児との交流もあり、地域に根ざしたサービスが進展している。外部評価にも積極的に取り組み、各項目の理解を深めるため勉強会を行う等、介護記録様式を改善し、ケアプランに沿った介護記録が工夫され、利用者のケアサービスの向上に繋げている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、介護記録の中にケアプランが活かされていないとの評価を受け、様式を改善しケアプランに沿った介護記録ができた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は管理者を中心に内容がまとめられているが、職員全員が自己評価作成に関わったことで、全員でケアを振り返り、これまで気付かなかった点に気づき、考え方の整理が出来た。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的に関開かれており、自治会代表や行政側、利用者や家族代表の参加があり、ホームのサービスの状況報告や、行事計画等を含め情報交換があり、協力体制が出来ている。しかし地域密着型サービス制度の趣旨が地域に十分理解されていないため、積極的な意見が出にくく、施設側からの説明が主になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者、職員とも、日頃から意識的に家族の意見、苦情、相談等引き出せるように心がけており、苦情処理委員会も設置されている。また、面会時や電話連絡、ホーム便り等定期的に発行し、随時報告がなされている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会の敬老会に、利用者、職員が招待され余興の提供を行うなど地域と一体となり交流を深める等、多くの場面で地域との協力関係が得られている事が感じられる。現状の地域交流や協力関係を維持しつつ、今後、ホーム側の地域貢献として、地域に住む高齢者に対する何らかの支援が出来ないかホーム側も検討しているが、個人情報保護法がネックにあり、躊躇している。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の尊厳や、基本的人権の尊重と安心した暮らしを支えていく等、独自の理念を創り上げている。今年度はさらに地域密着型サービスを盛り込んで理念の拡大を図っている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関口や居間にも掲げられており、食事前には利用者や職員全員で唱和し、日々の活動に反映させている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に加入し、地域の祭や行事に参加し交流を図る等連携が保たれている。又、ホームのお誕生会や敬老会に地域の方も参加し、協力をいただいている。地域の保育園児の来訪や、慰問等も度々行われて、交流をふかめている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価により、職員全員が自己評価に関わったことで、全員でケアを振り返り、これまで気付かなかった点に気づき、改めて現状認識や課題の整理が出来た。又、介護記録様式を改善し、ケアプランに沿った記録が出来るようになった。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役所の担当課長や利用者、家族、自治会長、民生委員、職員等で構成され定期的に開催し、ホームの活動報告や意見交換等、情報提供がなされサービスの向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の担当課長等が運営推進会議の委員として構成され、情報の提供等行政と連携する姿勢はあるが、事業所側からの働きかけが弱い。医療連携体制加算の創設について相談をしたが、回答が得られていない。	○	運営会議の担当を窓口として、利用者の状況報告や事業所の状況について、積極的に働きかけ連携を密にする様期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の心身の状況や変化については、個別に電話等で連絡を行い、職員の異動等についてはホーム便りに掲載し、ホームの行事は随時紹介している。その他については、面会時やホーム便りなど定期的に報告がなされている。なお金銭管理については管理者が行い、家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者等の苦情や要望に対応するための記録や、意見箱が設置され、管理者、職員とも積極的に対応しているのが伺えるが、あまり活用されていない状況である。	○	家族等の意見や苦情、相談等を運営に反映させるため、または利用者等に対して、些細なことでも受け止めてもらえるという信頼と安心感を持ってもらえるためにも家族会を設置し、意見の集約やアンケート調査など、家族の気持ちや意見等をさらに引き出せるような工夫を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1年間で2名の辞職者がいるが、管理者は出来るだけ職員の異動を少なくするため職員とのコミュニケーションをはかるよう務めている。また新しい職員が入る場合も、慣れるまでは夜勤等も含めて経験者と新任者がペア体制を組むなど、スムーズに移行できるよう配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所へ情報提供された研修や講習会は、積極的に参加しその内容を全体で共有しているが、その多くは管理者が参加している。なお、事業所内においても職員は働きながら介護福祉士や介護支援専門員へ挑戦し、学習に励んでいる。	○	職員の士気の向上及びモチベーション維持のためにも、管理者及び職員各自の経験や習熟度に応じた段階的な法人内のみならず、法人外の研修機会が確保出来るような、研修計画を策定して頂くよう期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会に加盟し、定例会、勉強会等に参加しながら情報の交換や質の向上につとめているが、職員間の交流がない。	○	今後は、八重山地区の地域密着型サービス施設の連絡会等を設置し、地域の課題等に取り込まれるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には家族と一緒に見学をしていただき、本人の状況等、情報交換し職員とふれあう中から信頼関係を築き、慣れてもらうよう工夫している。また、入居時には不安を和らげるために家族に泊まって頂くようにする場合もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、「介護技術以外はすべての面で利用者が先生だ」との観点に立ち、生活の知恵や郷土の文化、民謡を学びながら一緒に支えあっている様子が感じられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でまめに声かけをし、行動や表情の変化等から反応を確かめ、希望や意向を把握するよう務めている。又、家族の協力を得ながら出来るだけ本人本位の支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らすよう本人や家族の要望を取り入れ、課題となる事についてはスタッフ全員で話し合い、介護計画に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは定期的な見直しがなされ、状況により家族と相談の上、随時介護計画を見直ししている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性を活かしたショートステイ事業を導入し、本人や家族の要望に応じた柔軟な支援をしている。	○	今後は事業所から地域への貢献として、地域の認知症高齢者に対して相談支援など、医療連携体制の役割を担うことを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の意思で選択している。受診時には必要に応じて職員も同行し、適切な健康管理が行えるよう医師からアドバイスを受けるなど、協力体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	多くの利用者が「慣れ親しんだ地域で最期を迎えたい」という希望を持っている。しかし、重度化や終末期に向けた取り組みについては、現在行われていない。	○	事業所としては、利用者の高齢化や重度化などの観点から訪問看護等を取り入れ、関連機関との調整や医療連携体制の整備等、終末ケアについての勉強会等開催し、高齢者の看取りについて職員間で理解を深めて欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心やプライバシーを損ねる気配があればみんなで注意し合い、ミーティングで検討をし対応している。また、居室のドアに氏名や顔写真等を貼り、各自の居室を分かり易くしているが、貼られるのを嫌がる利用者については、掲示していない。個人情報の取り扱いには細心の注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、一人ひとりの生活のペースを大切に、利用者の希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力量に合わせて食材の皮剥き等の手伝いをしてもらっている。刻み食や流動食など一人ひとりの状態を考慮しながら、利用者の食べたいものを献立に取り入れたりするなど、食事が楽しみなものになるよう支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ハード面で浴槽の問題はあるものの、一番に入りたい方等利用者本人の希望に沿った時間やタイミングなどに合わせている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力量に合わせ、誕生会やホームのレク等には、司会担当係や挨拶担当係等をお願いしたりして、本人のモチーフを引き出し支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にスーパーへ買い物、ドライブに出かけたり、定期的な遠足を行っている。帰宅願望の強い利用者に対しては、他の利用者の病院搬送に合わせていっしょにドライブを行うなどして支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関の施錠をし、日中はほとんど鍵をかけず声かけをして、安全に配慮しながら自由な出入りを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年初めて総合防災訓練を実施し、消防署の指導を受け、職員、利用者共に防災・安全への意識付け及び避難誘導などを意識している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取や水分の補給については、毎食の摂取量が記録されている。献立については担当職員が作成し、必要に応じて法人の栄養士へ相談し、低栄養や、脱水に気を付けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には草花や庭木等が鉢植され、室内には絵画やインテリアが配置され、天井灯には眩しくないように布製のカバーを付けるなど落ち着いた室内空間が演出されている。しかし、午後になると西日が強く居室や厨房に差し込み眩いほどで、真夏時の暑さが気になる。又、天井には雨漏り等の滲みが目立つ。	○	午後になると西日が厳しくなるため、利用者への健康管理の配慮が求められる。日除けの対策や、天井の滲み等を補修し、居心地のよい環境作りを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた置物や、タンス等も持ち込んでいる。又、利用者の要望に添った室内の明るさ等が工夫されている。	○	西日の入る部屋の西日対策を早急に改善されるよう期待したい。